

## 大学院派遣研修での研修内容の概要

所属校	稲城市立 長峰小学校	氏名	吉田和義
派遣大学院	東京学芸大学大学院	専攻・コース	社会科教育専攻地理学コース
研究テーマ	子どもの遊び行動と知覚環境の発達プロセス —ニュータウン地区を事例として—		
<p>1 研究の目的（学校における現状、課題、課題を解決するための研究の位置づけ）</p> <p>ニュータウン地区に位置する長峰小学校においては、地域に対する認識や地域への帰属意識がニュータウン以外の地域と比較して形成しにくいという現状がある。また、均質な集合住宅からなる地域は、空間的な広がりをつまみにくいという傾向がある。このような地域の特色を踏まえ、児童の地域に対する認識の発達過程や特性について明らかにする必要があると考えられる。そこで、これらの課題を解決するために、児童に対する実態調査を通して、地域に対する知覚環境の実態を明らかにするための研究主題を設定した。あわせて、知覚環境を拡大をする契機となると考えられる遊び行動について実態調査を行うことを計画した。本研究ではこのような調査を実施し、結果を分析することを通して、児童の実態をつまみ、学校における社会科教育、地理教育、地域学習の充実に資することを目的とする。</p>			
<p>2 研究内容（方法・経緯・内容等）</p> <p>（1）調査方法</p> <p>子どもの遊び行動に関して小学校第3学年～第6学年までの児童を対象に質問紙法によるアンケート調査を行い、小学校第1学年～第6学年の児童、小学校の学区域内にある保育園の年長児、小学校から進学する公立中学校の第1学年の生徒を対象に手描き地図調査を実施した。</p> <p>（2）子どもの遊び行動</p> <p>子どもの遊び行動の特性としては、遊び場は、「公園」の割合が全体で70%以上と高く、これに次いで「家の中」の割合が高い。遊びの内容としては、放課後の過ごし方は、「ボール遊び」「テレビゲームをする」などの割合がいずれの学年でも高い。また、休日の過ごし方では、「買い物に行く」「テレビゲームをする」「本やマンガを読む」などの割合が高い。平日の放課後と比較すると、野外での遊びの割合が低く、休日は平日より家の中で過ごす傾向が強く、かえって野外での遊びが成り立ちにくい現状を示している。また、習い事に通う子どもの割合は、どの学年でも全体的に高く、80%を超える。1週間当たりの習い事の回数は、学年が上がるに連れて増加し、第6学年になると1週間に4回以上という回答の割合が、40%以上に達する。習い事の増加は、子どもが自由に遊びに使える時間の減少を意味する。</p> <p>（3）手描き地図の分類形態</p> <p>手描き地図の形態分類については、子どもが描いた地図をルートが形成されていない非</p>			

## 様式 1

ルートマップ、道路を中心に描くルートマップ、さらに、広い空間を面的に描くサーベイマップに区分した。そして、ルートマップとサーベイマップについては、発達段階に応じて1型と2型の下位分類を設けた。全体的な傾向として、保育園年長児、小学校第1学年では、非ルートマップおよびルートマップ1型の割合が高く、年長児ですでにルートマップが形成されていることが分かる。第2学年では、ルートマップの割合が高く、わずかにサーベイマップが見られるようになる。第3・4学年でも、ルート1型と2型をあわせたルートマップの割合が高く、サーベイマップが約10%現れる。第6学年と中学校第1学年ではサーベイマップの割合が増加する。しかし、サーベイマップの割合は約50%に止まる。

子どもが描いた建物の表現形式は、水平方向から見たとおりに描く「立面的」な描き方と上空の垂直的な視点から描く「位置的」な描き方の2種類に区分される。学年が低いと「立面的」な描き方が支配的で、次第に「位置的」な描き方に移行し、第4学年では40%が、そして中学校第1学年では90%が「位置的」な表現になる。表現形式には男女差があり、特に小学校第6学年と中学校第1学年で女子に「立面的」な描き方が多く見られる。

場所の意味を小学校の描き方の変化に注目して考察すると、「教室」「校舎」「校庭」など描かれる要素の個数は、第1学年では少ない。第3学年になると学校を表現するときに、自分の教室だけではなく、各学年の教室を含め、数多くの要素を描くようになる。しかし、第4学年以降は描く要素の個数は減少し、「位置的」な描き方の割合が高くなる。一般に小学校低学年では、抽象化の度合いが低く、個別の事象に感情を込めて捉える相貌的な知覚の傾向が強いことが明らかにされている。小学校の描き方の変化から、第3学年までは相貌的な知覚の傾向が残存していると考えられる。

### (4) 結 論

ニュータウン地区における子どもの遊び行動の特色として、遊び空間は近隣の街区公園への依存度が高く、計画されたオープンスペースや遊具スペースが主な遊び場となることが挙げられる。遊び時間は、習い事の増加により学年が高くなるほど制約される傾向にある。知覚環境の発達をみると、第6学年、中学校第1学年でサーベイマップを描く子どもの割合は従来指摘されていたものより低く、サーベイマップへの移行は遅くなっている事実が指摘できる。

## 3 研究成果と課題

本研究を通して、子どもの手描き地図を通して見た知覚環境の発達プロセスが明らかとなった。この結果をもとに、小学校における地図学習や地域学習の教材開発を進めることができる。課題としては、子どもの手描き地図がルートマップからサーベイマップに移行する要因が充分には明らかにされていない。子どもの空間行動と知覚環境の発達との関係を、個別の事例を参照しながら、明らかにしていくことが重要であると考えられる。それらを解明することを通して、地図学習を子どもの実態に即して充実させ、地域学習を推進することができると思われる。

大学院派遣研修成果活用状況

所 属 校	稲城市立 長峰小学校	氏 名	吉 田 和 義
派遣大学院	東京学芸大学大学院	専攻・コース	社会科教育専攻地理学コース
研究テーマ	子どもの遊び行動と知覚環境の発達プロセス －ニュータウン地区を事例として－		
1	<p>○地域連携コーディネーターとしての成果活用</p> <p>小学校の各学年における地域学習に関して、学習事例をまとめ、地域学習の推進に寄与した。例えば第2学年生活科における「長峰たんけんたい」の実践では、床地図を活用し、地域認識を深める授業を支援し、床地図の作成に協力した。児童が地図上を実際に移動する活動を通して、地域の広がりや道路の位置が確認できた。</p> <p>○公開授業での成果活用（平成17年11月8日実施、校内の教員対象、参加3人）</p> <p>校内の公開授業において地図の活用を取り入れた授業を実践し、社会科における地図の活用について取り上げた。特に、シールを使った主題図「日本の製鉄工場の分布図」を作成する活動を取り入れ、児童の地図を活用する技能が高まるよう計画した。</p> <p>○校内研修会での成果活用（平成17年12月26日実施、校内の教員対象、参加18人）</p> <p>子どもの遊び行動と知覚環境の発達をテーマとして、校内で研究成果について発表し、児童の手がき地図を通して見た知覚環境の発達について報告した。あわせて社会科における地図の活用について、実技研修会をもち、主題図の作成と活用について、実際に地図を作る作業を通して研修を深めた。</p>		
2	<p>○稲城市教育研究会社会科部会における成果活用</p> <p>（平成17年8月2日実施、市内の小中学校社会科教員対象、参加13人）</p> <p>稲城市教育研究会社会科部会では、本年度の研究主題を「小中それぞれの特色を生かした地理学習」と設定し、小中学校における地理学習に焦点をあて研究を進めた。「江戸城と佃島 江戸から東京へ ー景観復元と地理的見方・考え方ー」と題した巡検を計画し、講師を務めた。この研修では、作成年代の異なる地図を参照しながら、江戸時代の景観を復元し、現代の景観と対比することを通して地域の変化をとらえることを試みた。</p> <p>○稲城市石井家古民家保存活用検討会における成果活用</p> <p>稲城市平尾地区にある江戸初期に建てられた石井家の古民家の活用方法について、検討会に出席し、小学校の社会科学習並びに地域学習を充実させるために、意見を述べた。児童の地域認識を深める立場から、地域素材の教材化に寄与することができた。</p> <p>○日本地理学会にける成果活用（平成17年9月17日、会員対象、参加約50人）</p> <p>日本地理学会秋季学術大会（於茨城大学）で研究の成果を発表し、研究成果を広く公表した。地理教育を充実させる見地から研究の結果について討論をする機会を得た。研究で明らかになった事実について多くの意見が寄せられた。</p>		

<p>3</p> <p>成果を生かした研究授業等</p>	<p>校内の公開授業として、研究成果を踏まえ、以下の授業に取り組んだ。</p> <p>(1) 学年 小学校第5学年 教科名 社会科 単元 「工業生産と工業地域」</p> <p>(2) 単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の工業を支えている中小工場の特色、大工場や中小工場が集まっている主な工業地域の分布、工業生産を支える運輸の仕組みなどについて調べ、まとめることができる。</li> <li>・我が国の工業の現状や特色について、各種の写真、地図、分布図や統計資料を活用して捉え、分かったことを表現することができる。</li> </ul> <p>(3) 本時の内容</p> <p>本時の目標は、製鉄工場の分布から、工業立地の理由を調べ、我が国の工業地帯や工業地域の特色について分かったことをまとめることである。地図帳を活用し、京浜工業地帯の位置を確かめた上で、写真資料により、製鉄工場の様子を確認した。製鉄工場の分布を予想した上で、製鉄工場の分布図を作成した。分布図は、白地図で製鉄工場の位置にシールをはって作った。地図帳で位置を確認しながら、作業を進めた。できあがった分布図から、製鉄工場がどこに多いか読み取り、話し合った。児童は、製鉄工場が海のそばに多いことや北九州から関東地方にかけての太平洋沿岸に多いことを捉えることができた。</p> <p>(4) 研究成果の活用</p> <p>児童の地図認識は、線的な認識から面的な認識に発達することが明らかにされている。小学校5・6年になっても線的な認識段階にある児童が見られ、日本地図の読み取りにあたって、このような傾向を踏まえ、支援することに配慮した。</p>
<p>4</p> <p>今後の活用計画等</p>	<p>(1) 校内における活用計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携コーディネーターとしての活用</li> </ul> <p>地域素材を活用した学習が有効に実践されるように、地域学習の活用計画や地域人材リストを作成し、地域学習の一層の活性化を図るようにする。あわせて地域行事に参加し、地域との連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における活用</li> </ul> <p>社会科並びに総合的な学習の時間において地図を活用し、児童の地図認識が深まるように計画する。身近な地域、日本、世界など様々なスケールの地図について、児童の地図認識の特徴を踏まえた活用を図るよう計画する。</p> <p>(2) 稲城市教育研究会における活用計画</p> <p>稲城市教育研究会の副部長として、稲城市における地理教育の振興、地域学習の充実、小中の連携を目指して活動する。研究授業では、地図を通して地域の認識が深まるように支援する。また、社会科部の教員を対象とした巡検や実技研修会を計画し、教材開発力が向上するように努力する。</p>

# 社会科学学習指導案

平成17年11月8日(火) 第5校時

稲城市立長峰小学校

第5学年1組 35名(男子18女子17)

授業者 吉田 和義

## 1. 単元名 工業生産と工業地域

### 2. 単元の目標

- ・我が国の工業を支えている中小工場の特色、大工場や中小工場が集まっている主な工業地域の分布、工業生産を支える運輸の仕組みなどについて調べ、まとめることができる。
- ・我が国の工業の現状や特色について、各種の写真、地図、分布図や統計資料を活用して捉え、分かったことを表現することができる。

### 評価規準

#### ○関心・意欲・態度

工業の盛んな地域について関心をもち、その工業の特色や工業が盛んな理由を様々な視点から調べようとする。

#### ○思考判断

日本の主な工場は、海外との輸出入の関係から海沿いに広がっていることや、専門技術をもっている中小工場の活躍などを考えることができる。

#### ○技能・表現

我が国の工業の特色について、分布図・帯グラフなどの資料を読み取ったり、表現したりすることができる。

#### ○知識・理解

工場の規模による生産性の違い、工業立地と交通の関係、運輸の働きについて理解する。

## 3. 研修成果の還元

#### ○社会科における地理学習の充実

地理学習においては、地図を活用して空間的な認識を養うことが重要である。第5学年では、日本地図の基本図および主題図を活用し、国土の認識をもつようにする。このとき地図を活用する技能を習得することが大切である。

#### ○児童の地図認識の発達

児童の地図認識は、線的な認識から面的な認識へ発達することが知られている。小学校第3学年ころから面的な認識に移行し始める。しかし、第5・6学年になっても依然として線的な認識が残存し、この実態を踏まえた地図学習が重要であると考えられる。

#### ○地域教材の開発

地域にある地理的事象に関心をもち、各種の産業の学習や国土の学習と結びつけることができるようにする。

#### 4. 単元の指導計画

時	おもな学習活動と内容	指導上の留意点
1	町の工場を訪ねて 町工場を取り上げ、自動車工場と異なる製品や作業について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業の役割や専門技術の大切さに着目させる。</li> <li>・大工場と中小工場を対比する。</li> </ul>
2	大田区の工業生産 中小工場が多い大田区の事例から、中小工場の特色について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフ、資料を中心に大工場と比較し、中小工場の特色をつかむことができるようにする。</li> </ul>
3	東京湾を囲む工業地帯 東京湾を事例に工場が集まっている地域の様子や工業地域の特色について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業地域や工業地帯の景観の特色に関心を持たせる。</li> <li>・地図から分かることを出し合うようにする。</li> </ul>
4	海沿いに広がる工業地域（本時） 地図や資料を基に日本の主な工業地域や工業地帯は、海沿いに広がっていることを調べ、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図を活用し、工業立地の特色を捉えることができるようにする。</li> </ul>
5	全国へ、海外へ 工業生産と運輸の働きが結びついていることを調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラックターミナルなど貨物輸送の拠点を例として取り上げる。</li> <li>・他地域との結びつきに関心をもつようにする。</li> </ul>

## 5. 本字の目標

製鉄所の分布から、工業立地の理由を調べ、我が国の工業地帯や工業地域の特色について分かったことをまとめることができる。

分節のねらい	学習活動と内容	指導の工夫と評価の観点（☆）
<p>○京浜工業地帯の様子について捉える。</p> <p>○製鉄所の分布図から、どうしてそこに工場が分布しているか調べる。</p> <p>○分かったことや疑問に思ったことをまとめる。</p>	<p>○京浜工業地帯の様子について、確かめる。</p> <p>○地図帳を活用し、京浜工業地帯の位置を確かめる。</p> <p>○製鉄工場の写真からどのようなものを作る工場か予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな工場だな。</li> <li>・製鉄工場かな。</li> </ul> <p>○製鉄工場は日本のどこにあるか予想する。</p> <p>○製鉄工場の分布図を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本地図の製鉄工場の位置にシールをはる。</li> </ul> <p>○分布図から「はてな」をさがす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製鉄工場があるところとないところがある。</li> <li>・鉄鋼工場があるところは、かたよっている。</li> </ul> <p>○製鉄工場は、どのような場所に多いか話し合い、その場所にある理由について考える。</p> <p>○多い地域に名前を付けるとしたら、どのような名前が良いか発表する。</p> <p>○「太平洋ベルト」についての説明を聞く。</p> <p>○分かったことや「はてな」をカードにまとめる。</p>	<p>・地図からどのような工場があるか読み取るようにする。</p> <p>☆資料や写真から、工場の様子を読み取れたか。</p> <p>・予想の理由を説明できるようにする。</p> <p>・分布のかたよりを読み取る</p> <p>☆分布の特色を捉え、工場が立地する理由について、発言したり、書いてまとめたりできたか。</p> <p>☆調べたことを自分の言葉でわかりやすくまとめることができたか。</p>